平成 28 年度 研究計画書

Research Plan FY2016

DATE: 2016年6月15日

講座名・職名	アジアⅡ講座・教授			
Course Title • Job Title				
氏名 Name	加藤昌彦			
専門分野Academic Field	言語学			

平成 28 年度 研究計画(ホームページで公開) Research Plan FY2016 (Post on Website)

主たる研究テーマ	ポー・カレン語及びビルマ語の記述研究
Principal Research Subject	

研究計画 (400 字~500 字で記入すること。) Research Plan (Approximately 100 Words) 今年度の研究テーマは下記のとおりである。

- (1) ビルマ語の動詞意味における結果実現の非含意。ビルマ語では、「彼を殺した。しかし彼は死ななかった」「窓を壊した。しかし窓は壊れなかった」というような表現が可能である。一方、日本語ではこのような表現の容認度がビルマ語ほど高くない。この違いは、いわゆる達成動詞(accomplishment verbs)の論理構造における結果部分が、ビルマ語においては目標としての結果であるのに対して、日本語では結果そのものであることに起因すると思われる。このようなビルマ語と日本語の事象把握における違いが、この二言語のどのような部分に現れているかを探り、動詞の意味論から両言語の類型化を試みる。
- (2) ポー・カレン語文法記述の精緻化。博士論文「ポー・カレン語文法」を精緻化し、ポー・カレン語の参照文法を出版するための準備をする。今年度は、談話における非人称構文の出現環境、主語と目的語の統語論における優位性、動詞連続構文における V2 の意味的特徴などを探る予定である。

共同研究可能な分野					
Research Fields feasible	言語学	日本語学			
for joint research *1					
キーワード Keywords*2	カレン語	ビルマ語	東南アジア諸語	TB 諸言語	